



祐介の目

No.134

大田祐介 (福山市議会議員)

派遣してドイツのUボート(潜水艦)から英仏等の商船護衛に大活躍した。この知られざる歴史をニコルさんは「遭敵海域」や「特務艦隊」として上梓した。当時イギリスを訪問した皇太子(昭和天皇)はロイヤル・ネイビーの旗艦である戦艦ワイーンエリザベスに乗船され、歓待してもらった。

日英同盟とC.W.ニコル

エリザベス女王の国葬において、戦後イギリスの対日感情は悪かったが、両国の皇室外交により修復されたと報道があった。第二次大戦前におけるA B C D包囲網のBはイギリス、日本陸軍は南方の資源獲得のために昭和16年12月8日マレー半島に上陸しイギリスの東洋の拠点シンガポールを占領した。この勝利は東洋におけるイギリスの覇権を蹴散らし、マレーシア独立のきっかけとなった。しかし、イギリス人捕虜の扱いが酷かったという事で、戦後B C級戦犯として処刑された日本人も多いが、それだけでは済まなかったという事だ。

私は日英の歴史を紐解き、両国の関係改善と友好に最も貢献したのはC.W.ニコルさんだと思う。そもそも日露戦争前にロシアを共通の敵とみなした両国は「日英同盟」を結び、第一次大戦において日本海軍は地中海まで特務艦隊を

その後日英は戦火を交える関係となった。シンガポール危うし!と、本国から派遣された戦艦プリンス・オブ・ウェールズ(英皇太子)は12月10日に日本の航空機による攻撃によりあえなく撃沈された。これは航空機による世界初の戦艦撃沈であり、チャーチル首相は大ショックを受けたそう。戦後即位したエリザベス女王も昭和天皇・明仁上皇も当然これらの歴史を知っていたので、両国の関係修復に尽力されたのだろう。

他にもニコルさんは「勇魚」により日本の捕鯨の正当性を訴え、黒姫山の麓に「アファンの森」を作り里山保全にも取り組み、しまいには日本に帰化され日本人になった。残念ながら2年前に亡くなられたが、13年前に福山山岳会により開催したニコルさんの講演会が懐かしい。